安倍奥

安倍川・関の沢支流シバシロ沢

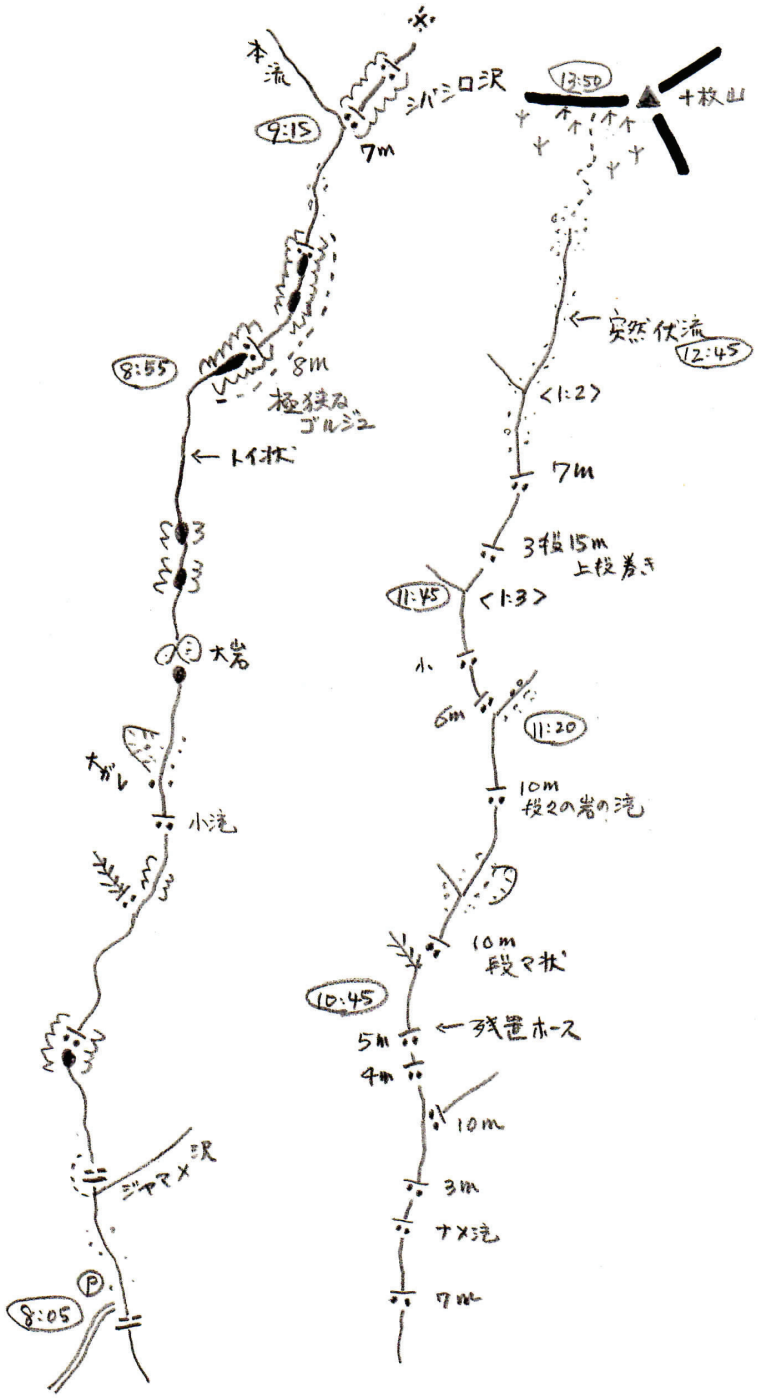
メンバー:三井(単独)
遡行日:12年11月25日

安倍川を北上する。
視界に入る山の頂に薄っすらと白いものが見える。一昨日降った雨が山では雪になったのだろう。間もなく、というより世間的には既に沢のシーズンも終わりか。
関の沢に沿う林道を少し進むとあっけなく林道は行き止まる。
車をとめ、身支度をしていると下から軽トラが上がってきた。その軽トラから降りてきた人が僕を見ると「この前の人か。」と言う。
その人の顔に僕も見覚えがあった。
僕は先々週もこの沢に来たのだがその時今日と同じように車を止め、支度をしていると上がってきた車があったのだがその車の人だった。その人は林業に携わっている人でこの辺りの山の伐採作業をしたり、安倍奥の山の登山道の笹刈りを静岡市から依頼されてしたりしている、などという話をその時していたのだった。
僕はその日は風邪が治りきらないまま計画を強行したのだが案の定というかどうも調子が悪く、入渓してしばらくして中止して引き返してしまったのだがそれでまた来た、という話をするとその人は「フーン。」と言ったきりだった。
その「フーン」はこの寒いのにまー、何が楽しいんだか…という意味の「フーン」かもね。

沢に入るとすぐ二段の堰堤があり、左から超える。沢は荒れ気味の河原だが間もなくゴルジュっぽくなる。水量も少なく通過に問題はないが浅くても釜に入ることは出来ないので当然巻になるのだが。
水流がトイ状になったところを過ぎると沢は90度におれ、その先が狭隘なゴルジュとなっている。
沢幅は 1-2m ほどに狭まりその奥にはご丁寧に 7-8m の滝が落ちている。
まるで絵に描いたようなゴルジュだ。
当然瀞の部分は泳ぐか、首まで浸からなければ通過は出来ないだろうし滝も厳しそうだ。
盛夏ならやってみる気にもなろうがこの時期、それは問題外だ。左岸から巻く。
滝を超えた辺りで懸垂して沢に戻ろうとするも持参のロープでは足りなそう。そのままトラバースしていって「リッジっぽい所をクライムダウンする。
間もなく左岸から 7m の滝を落として目的の「シバシロ沢」と出合う。
沢は小滝がぽつぽつと現れ、それを淡々と越えていく。沢自体問題はないがさすがに手指が冷たいのには参る。
早く稜線にあがろうと足を早めるが以外に時間を喰う。
やがて3段15mの滝。下段、中段は問題ないが上段は落ち口が立っていて瀑水を頭から浴びそうなので巻く。
そのあとに7m ほどのトイ状の直瀑。
左から巻き、先に進むが漸く沢は源頭っぽくなる。
二股を右にとり少し行くと突然水流が無くなる。まだ沢形がしっかり残っているのに不思議な感じ。

涸れ沢をしばらく行くと沢形が無くなり扇状に広がった地形となって辺りは薄っすらとした雪が斑に残っている。
靴を履き替え、灌木の生えた斜面に取り付くが砂礫の地質でそれに落ち葉と雪が乗っていてぐずぐずしていて登り難いったらない。うんざりするが登って行くしかないしなぁ。
スズタケが現れると稜線も近い。幸い、スズタケの丈は余り高くなくて助かるが掻き分けて進むと葉の上に載った雪が落ち、下半身が濡れてしまい寒いったらない。が、辛抱して登るしかない。
ようやく登山道にでた。十枚山のピークのすぐ西の辺りだった。樹林の稜線を少し登ると頂上。
他の沢からも何度か登っているが展望がいいのでハイカーに人気の山だが既に下山してしまったのか今日は誰もいない。
それに天気予報に反してガスっていて何も見えず、冷たい風が吹いていて長居は無用、そのまま登山道を下って下山する。

シバシロ沢は沢自体は小沢だし、大きな滝もないのでそれほど遡行価値がある沢とは言えないが…。まー、核心部のゴルジュの突破をテーマにすれば面白いと思うがただ、寒い時期は無理だし、暖かい時期はこの山域の沢の御多分に漏れずヒルの巣になるのはちょっとね。
まー、時期外れにまずまず楽しめたのでいいとしよう。



12年11月25日
安倍奥　安倍川/南小沢支流シバシロ沢